特別企画 ❶ 写真展

「コドモノクニ」

齋藤亮一（写真家・東京造形大学講師）

子ども学会議の新たな試み

今回の第 11 回子ども学会議では、初めての試みとして「子ども」を写した写真展を開催した。

白百合女子大学の図書館を会場に展示したのは、写真家の齋藤亮一氏の作品「コドモノクニ」。東日本大震災・福島の原発事故が発生した翌年の 2012 年秋に、新宿のコニカミノルタギャラリーで開催された【齋藤亮一写真展「コドモノクニ」】の写真すべてを、そのまま展示させていただいたもので、斎藤氏がこの 30 年間、日本各地で出会った子どもたちを撮った作品群である。

なお、写真展は「子ども学会議」より数日先行して公開を開始し、同大学の学生の皆さんたちにもご覧いただいた。

「コドモノクニ」

町であれ田舎であれ、人を育むのは
その土地や風土といったものではないでしょうか。
いつの世も子どもは未来そのものであり、
彼らを育む土地や環境に対して、
すべての大人に責任があります。

この日本各地の豊かな「コドモノクニ」の写真が
子どもについて様々に思いをめぐらせる
ささやかなきっかけになりましたら嬉しく思います。

〈プロフィール〉
1959 年、北海道札幌市生まれ。写真家。東京造形大学講師。日本大学芸術学部写真学科卒業。在学中より三木淳氏に師事、1985 年よりフリー。雑誌や書籍の仕事を中心に人物、風土などを撮影する一方、ライフワークとして世界各地を旅し、写真集、写真展などで作品を発表している。特に 1989 年のベルリンの壁崩壊直後から、変わりゆくロシア、東欧など旧共産圏のほとんどの国を回ってきた。近年は「命の輝き」を求めて、日本の風土や祭りにもカメラを向けている。現在、『ＮＨＫ短歌』（ＮＨＫ出版）、『嗜み』（文芸春秋）で連載を持つほか『サライ』（小学館）、『なごみ』（淡交社）などでも活躍中。写真集に『NOSTALGIA』『BALKAN』『Lost China』『フンザへ』『INDIA 下町劇場』『佳き日』『SL がいたふるさと－北海道 1973 ～ 1980』。ブータンの子どもを撮影した『世界のともだち 21 ブータン』（偕成社）が 2015 年 1 月に発刊された。
http://www.saitoryoichi.com/